

表1 都市別職業別学歴別人口

都 市	職 業 (昭40)	人口100人 当たり者			学 歴 (昭35)	人口100人 当たり者			
		管理・事務 職就業者数	業 者			短大卒以上 卒業者数	計	大 学	
			計	管 理				事 務	短大高専
福 岡	83,030人	11.1	2.2	8.9	43,584人	6.7	3.6	3.1	
佐 賀	11,327	8.4	1.3	7.1	5,606	4.3	2.5	1.8	
長 崎	32,496	8.0	1.3	6.7	14,214	4.1	2.6	1.5	
熊 本	38,810	9.5	1.5	8.0	17,712	4.7	2.9	1.8	
大 分	19,465	8.6	1.2	7.4	5,670	4.5	2.6	1.9	
宮 崎	16,135	8.8	1.3	7.5	6,001	3.8	2.3	1.5	
鹿 児 島	29,924	9.1	1.5	7.5	13,134	4.4	2.9	1.5	

(資料) 国勢調査

表2 都市別行政機関、政府関係機関の機能別設置数

都 市	総 数	中枢管理機能	
		A	B
福 岡	36	29	7
佐 賀	—	—	—
長 崎	5	1	4
熊 本	19	11	8
大 分	1	—	1
宮 崎	—	—	—
鹿 児 島	6	—	6

注) 管理機能Aは管轄範囲がブロック全域、Bは県域以上に及ぶものである。

(資料) 日本分県地図地名総覧(1970年版)

諸施設、市域交通体系などの諸条件を十分考慮のうえ、新幹線駅の建設を促進。

分考慮のうえ、新幹線駅の建設を促進。

第3節 中枢管理機能の拡充整備

中枢管理機能の集積について中枢都市熊本の現況をみると、まず、人材の集積面で、都市のもつ中枢管理機能の集積度を表わすひとつの指標である管理、事務職などの就業者、短大以上卒業者の集積状況をみると、(表一)のとおり九州

施設集積面では、九州における行政機関、政府関係機関は、(表二)のとおり福岡市と熊本市で二分した形で設置されており、熊本市の九州における行政機関、政府関係機関の集積は高い。また、中枢管理機能の発現機能である調査研究の業務を担当する調査研究機関は、市に十機関、市近郊に六機関設けられており、他の九州県庁所在都市と比較して、その集積は大きく、特に国立、公立

◇ 現況と問題点

各県県庁所在都市の中では、いずれも福岡市につく高い集積を示している。

◇ 現況と問題点

都市計画街路の整備状況をみると、その進捗状況は、街路総延長百七十一キロのうち、改良済み四十六キロで約二七％の改良率となっている。改良の大部分は都心部およびその隣接区域に重点がおかれてきたが、この数年來はその整備が漸次周辺部に向けて拡大されつつある。

◇ 対策の方向と重要施策

従来一点求心的で、曲折していた街路網は、近代的な放射環状型に改められる。一方、熊本市と周辺市町村とは、同じく放射環状型の道路で結ばれ、周辺市町村から熊本市への通勤、通学が短時間で可能となる。さらに、国鉄新幹線の熊本延長が実現し、また、電話は、各戸に普及する。

環状道路の形成

さきに述べた各市町村を結ぶ路線を外環状線とし、玉名山鹿線など七路線、延長約七十五キロの整備をすすめる。

また、植木町、西合志、合志町、菊陽町、託麻村、嘉島町、熊本市川尻町、飽田村、熊本市薄場町を結ぶ路線を中央環状線とし、大津植木線など十五路線、延長約四十キロの整備をすすめる。

市街地幹線街路の整備
市街地については熊本市内の清水町、上立田、保田窪、湖東町、田迎町、近見町、野口町、戸坂町、花園町を結ぶ、弓削近見線など三本の都市計画街路、延長約二十七キロの整備を促進し、市街地環状道路の形成をはかる。

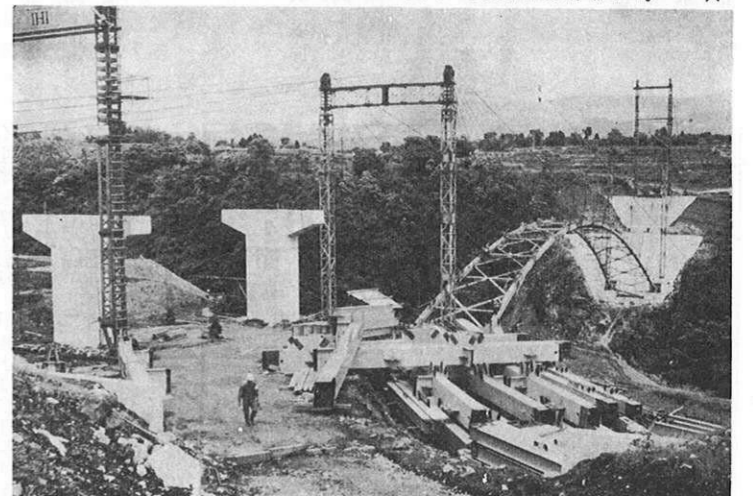
◇ 将来の展望

熊本市周辺の幹線道路と有機的に連結された道路網、街路網の形成が進展し、

このため、都市域交通通信体系の整備をすすめるものとするが、特に次の事項について重点的、積極的にその推進をはかる。

放射状道路の形成

熊本市を中心とする放射状道路を整備して、周辺の玉名市、山鹿市、菊池市、大津町、益城町、御船町、甲佐町、松橋



立野一長陽間の新国道工事……★

都市発展の方向を踏まえて市街地幹線街路の整備を積極的に促進する。このため、新市街、水前寺線、二本木小磯線などをはじめ街路延長約七十一キロの重点的な整備をはかる。

新幹線駅の建設促進

新幹線駅の建設を促進する。新幹線の本県への延長を促進するとともに、新幹線路線、地勢、市勢発展の動向、都市内